

ゆうきつむぎの文様について
茨城大教育 徳蔵きみ

目的 ゆうきつむぎは古くから常陸地方のありものとして、約千数百年の歴史をもっているといわれている。そのゆうきつむぎの文様について、特に国の重要無形文化財織物としての指定をうけて、約20年の年月を経ているのでその間文様はどのような変化がみられるかについて検討した。

方法 現地における調査および文献による。

結果 ゆうきつむぎは長い間男物の着尺地として生産されていたため文様には特に変化が少なく、白かき無地又は御糸織物の大部分であり一部でかんたんな餅が取り入れられていたがあまり進歩はみられなかったが、昭和28年に茨城県指定の文化財織物となってからは、文様デザインの公募をはじめた。その結果男物一辺倒であったゆうきつむぎが女物の着尺地の生産へと大きくその対象を変えていった。そして昭和31年に国の重要無形文化財織物指定後はますます文様面に女性の好みを加味されるおゆうきつむぎのもつ、らしさを失わないような文様が展開されている。